



小澤 順子さん  
(丸山地区)

丸山に嫁いで13年、4人の子どもに恵まれて毎日気忙しく過ごしています。眼前に広がる海と里山の緑に囲まれる美しい場所に住んでいながら、ゆっくりと自然を味わう暇もなく過ごしてきたように思われます。子どもたちの成長とともに地域や学校にも馴染んで、最近では「ここで生きていくんだ」という思いも確かなものになりました。

末の息子がお誕生日を迎えた頃、南房総市が産声をあげましたが、とまどいや不便さは目につきますが実感が持てずいます。市として落ち着く頃には、私の中でも馴染んでくるとは思いますが、それぞれの地区が競いつつ連帯しているようなのびやかな環境の中で、子どもたちと暮らしていけたらいいと思っています。



星野 順子さん  
(白浜地区)

私たちのバレーボールチームは白浜地区の女性で構成されている小さなチームです。チームの中には学生からの経験者やママさんになって初めてボールをさわる方もいます。年齢層も幅広くみんなバレーが大好きです。

バレーを通じてみんなが大切なものをもらったと思います。私は、かけがえのない仲間と出会うことができました。コート内外で助け合い、励まし合い、時には自分に足りないものに気付かせてくれたりもしました。それによって、自らが成長し、子育てや家庭、仕事に反映されています。私だけでなく、みんなが同じ気持ちだと思います。

南房総市になっても、私どものような小さなチームやスポーツを通じた交流が衰退することなく、発展するように切に願います。



木村 庸一さん  
(富浦地区)

南房総では、きれいな海に囲まれ、緑豊かな里山、そして、穏やかな気候、そんな環境の中で暮らしていけます。「贅沢なことで、何ものにも代えがたい。」その様に思っている人は少なくないでしょう。

しかし、実際には、地域の活力・未来を考えると物足りない所が多々あると思います。今後の街づくりには、自然との調和や旧7町村の特色を活かす等あると思いますが、多様化したライフスタイル、生活環境の中で、総ての住民に受け入れられる政策は難しいはずで、行政側と市民の熱意があつてこそ道は開けてくるのでしょ。住民一人ひとりの南房総市に対する思いが未来の南房総を育むのだと思います。

MINAMIBOSO  
ふるさとへ

思いをこめて一筆

地区を支える皆さんに郷土への思いや願いを書き留めてもらいました。



石井 英毅さん  
(和田地区)

私は、観光に関する仕事をしているので、常々、南房総の温暖な気候のもと、海・山・花・果物・田畑……私たちが普段当たり前に身近にある豊かな自然を、都会の人たちに提供することができるかと考えています。南房総市は、都会から近く、手軽に訪れることができる観光地としてのメリットを生かさない手はありません。

そのためには、交通機関、特に道路整備や情報発信に力を入れ、旧7町村の個性ある魅力にもっと磨きをかけ、そして存分に生かし、何度でも気軽に訪れていただけるようにしていかなければと考えています。

南房総市全体が活気にあふれ、元気を取り戻さなければなりません。そうなるように願ひ、また、努力していきたいと思っています。



大野 一茂さん  
(千倉地区)

新市の経済発展や若者の定住化を図る上で、産業の振興は重要な施策の1つだと思います。

私の住んでいる千倉は昔から農業、漁業を中心として発展し、現在も「花のまち」「魚のまち」として知られています。しかし、時代の移り変わりと共に、農水産業や消費者の形態が大きく変わってきています。これからは農水産物の共同PRやギフト商品の開発など、農業と漁業が連携をとり、さまざまなニーズへの対応が必要だと思います。幅広い年代の消費者に対応できる産業の1つとなっていけば経済発展につながり、地域が活性化していくと思います。



岡本 秀和さん  
(三芳地区)

新市「南房総市」の誕生をお祝い申し上げます。

11市町村による安房地域市町村合併任意協議会が開催された頃から、私の生まれ育った三芳村はどこへ向かうのだろうか、期待と不安が入り混じった心境でした。

7町村合併による新市の誕生にあたり、この地域に関わる多くの方々が大きな決断をしてきたという歴史を忘れず、謙虚に新しい南房総市の土作りに励みたいと思います。

次世代が播くであろう新しい種の一粒一粒が、安房地域に大きな花々を咲かせますように。一市民として、そして安房の一住民として、将来を担う子供たちが誇れる郷土創りに加われれば幸いです。



小澤 さとみさん  
(富山地区)

この土地には穏やかな四季があり、その表情も豊かです。この地を選び住む方々の話を聞くにつれ、改めてその感を強くしました。また、この土地には大きな企業はありません。その分、様々な職業の方がいます。「大変だね」「辛いねえ」と言葉には聞きますが、その顔には笑顔が見えたりもします。この豊かな自然がある事が根本で、それぞれが自分に誇りを持って暮らしていける、そして次の世代にきちんと受け渡せる…簡単な様で難しくもある、そういう事が行われていく為にも、市民目線で『何が必要で何が不必要か』を見極めてほしいと思っています。笑顔と活力のある市であってほしいと、私は願っています。